

《実施結果報告書》



広島平和記念式典派遣事業

2013年8月5日(月)～7日(水)



広島平和記念式典派遣事業実施にあたって

燕市長 鈴木 力

燕市は、平成18年12月25日に「非核平和都市」を宣言しました。この宣言は、平和を愛する世界の人々とともに核兵器の廃絶と非核三原則を強く世界に訴え、核兵器のない真の世界恒久平和が実現することを願って行ったものです。

非核平和は私たち人類の普遍的な願いです。世界でただ一つの被爆国の国民として、今日、享受することのできる平和と繁栄が、戦争による尊い犠牲の上に築かれているということを、後世に永遠に語り継いでいくことが大切であると実感しております。

燕市では非核平和の推進と平和学習活動の一環として、平成20年度から毎年、市内の5つの中学校から生徒を広島へ派遣し、今年で6年目となります。

生徒たちは平和記念式典へ出席するとともに、各学校の全校生徒が平和の祈りを込めて、また戦争の犠牲となられた方々の冥福をお祈りして折った千羽鶴を「原爆の子の像」に捧げてきました。

また、広島平和記念資料館、原爆ドーム、原爆供養塔などの見学、被爆体験講話の受講、灯籠流しも体験してきました。その中で生徒たちは直接目と耳で学び、感じてきたことを通して、「命の尊さ」や「平和を愛する心」を学び、報告会でも今回の体験についてしっかりと説明し、それぞれ平和への誓いを堂々と述べていました。

今後は、各学校において活動報告や事後研修を実施し、広島で学んできたことを生徒たちみんなに伝え、平和の大切さを共有し、さらに次の世代へ伝えていってもらえるものと思います。

終わりに、今回の事業実施に際しまして多くの方々からご協力いただいたことにつきまして、心からお礼を申し上げます。

広島平和記念式典派遣事業 日程

事前研修 7月19日(金) 18:30 ~ 19:30

- ◇ 学校教育課長あいさつ
- ◇ 参加者・引率者自己紹介
- ◇ 「広島平和記念式典」派遣事業について
 - ・事業概要説明(目的・活動内容等)・当日までの準備



1日目 8月5日(月)

- ◇ 出発式(燕市役所) 7:15 ~ 7:30
- ◇ 移動(燕三条~広島) 8:12 ~ 14:06
- ◇ ホテル(アパイン広島グゼクティブ) 14:15 ~ 14:30
- ◇ 平和記念公園 15:10 ~ 17:00
 - ・千羽鶴奉納(原爆の子の像)
 - ・公園内見学
- ◇ 被爆証言講話(広島市青少年センター) 17:30 ~ 18:30
- ◇ 広島市内にて夕食 19:30 ~ 20:30
- ◇ ホテルにてミーティング 20:45 ~ 21:30



2日目 8月6日(火)

- ◇ ホテル発 ~ 6:25
- ◇ 広島平和祈念式典参加 8:00 ~ 8:45
 - ・原爆死没者名簿奉納
 - ・献花、黙とう
 - ・平和宣言(広島市長)
 - ・平和への誓い(子ども代表)
 - ・来賓あいさつ
 - ・平和の歌(合唱)
- ◇ 原爆死没者慰霊碑参拝 9:00 ~ 9:15
- ◇ ひろしま子ども平和議会見学 9:30 ~ 11:40
- ◇ 広島平和記念公園 13:30 ~ 15:00
 - ・ボランティアのガイドにより公園内見学
 - ・企画展見学
- ◇ 広島城見学 15:30 ~ 16:30
- ◇ 灯ろう流し参加 19:30 ~ 20:00
- ◇ ピースナイター観戦 20:30 ~ 21:30
- ◇ ホテルにてミーティング 22:00 ~ 22:15



3日目 8月7日(水)

- ◇ ホテル出発 ~ 5:30
- ◇ 宮島周辺観光(厳島神社) 7:30 ~ 10:00
- ◇ 移動(広島~燕三条) 12:01 ~ 18:02
- ◇ 解散(燕三条駅) 18:10



報告会 8月9日(金) 9:00 ~ 9:20

- ◇ 報告会
 - ・派遣概要報告
 - ・参加者より報告
 - ・市長から参加者へねぎらいの言葉



研修レポート

① 出発式参加者決意表明

② 参加者レポート

燕中学校	金子 美希
小池中学校	宗村 晃佑
燕北中学校	中条 莉奈
吉田中学校	日下部 悟司
分水中学校	石口 唯

③ 引率者レポート

学校教育課

統括指導主事	小林 靖直
指導係 主査	田邊 佳代子

④ 報告会資料

⑤ 広島平和記念式典

派遣事業の様子

出発式参加者決意表明

燕中学校：金子美希

私は今回の広島派遣で、この新潟では学べない様々な事を学んできたいと思います。広島に原爆が落とされたのは今から 68 年前のことです。時間が経てば実際に原爆を経験した人がいなくなってしまうのが現状です。この日本に原爆が投下されたという事実が風化しないよう広島で様々なことを学んで、そしてそのことをいろんな人たちに伝えていきたいと思います。

小池中学校：宗村晃佑

僕は今回の研修を通して、今まで歴史の教科書やテレビなどでしか学ぶことができなかった原子爆弾、そして戦争、平和のことを、実際に広島に行き、原子爆弾の恐ろしき、戦争の悲惨さ、平和の尊さをしっかり学んでいきたいと思います。そしてそれを持ち帰って家族をはじめ、学校のみならず、たくさんの人に一人でも多く伝えられるよう頑張っていきたいと思います。そして唯一の被爆国である、日本だからこそできる貴重な体験を充実したものにできるよう頑張りたいと思います。

燕北中学校：中條莉奈

私はこの広島の派遣事業で、新たなことやいろいろなことを学んでいきたいです。広島であった原爆の悲惨さなどを学んでいきたいです。この学んできたことを学校の多くの人やいろいろな人に伝えられるようにしていきたいです。学校の代表だけでなく、市の代表という自覚を持って行動していきたいです。

吉田中学校：日下部悟司

自分はこの派遣事業を通して戦争の悲惨さ、そして原爆の恐ろしさをたくさんの人に伝えたいです。そしてここにいる皆さんと一緒に広島を平和記念式典に出て命の大切さを学び、その命の大切さを多くの人に教え、「戦争は悪い」ということを皆さんに伝えられるように頑張っていきたいです。

分水中学校：石口唯

私は、今朝のニュースで原爆ドームの映像を見て「あっ、これに参加するんだな」と思ってすごく緊張したんですが、また素晴らしいものに参加できる期待もあります。私は、教育長さんなどがおっしゃったように自分の目で見たり聞いて自分にしか感じられないことを向こうに行って感じてきて、帰ってきた時には「これで、あーよかったな」と思えるように、皆さんに報告できるようにしたいと思います。

① 事前学習「太平洋戦争時下の生活」

<国家総動員法と勤労働員>

1938年（昭和13年）に政府は戦争の長期化に備え、国民や物資を優先して戦争にまわそうと、国家総動員法を定めました。この法律によって、国民を強制的に工場で働かせることができるようになりました。これにより、中学生や女学生は、労働力不足や食料不足を補うために勉強を中断して、軍需工場や食糧生産に動員される、勤労働員が行われるようになりました。

<当時の子供の生活>

1944年（昭和19年）になると、空襲が激しくなり、東京や大阪などの大都市はもちろん、軍事施設や工場がある各地の中小都市も攻撃され、小学3年生以上の学童が空襲をさけて農村へと集団疎開を行いました。

しかし、疎開先でも厳しい状況は変わらず、ご飯の代わりにサツマイモやジャガイモを食べたりしていました。少ない食料を無駄にしないよう、一口40～60回噛むよう指導が行われたりしましたが、量の不足は補いようもなく、子供たちの体重は減少していきました。

<人々の暮らし>

また、集団疎開をしない中学生や女学生は、労働力不足や食料不足を補うために勉強を中断して、軍需工場や食糧生産に動員されるようになりました。

当時、米をはじめ、生活必需品のほとんどが配給となりました。

しかし戦争が長引くにつれ、その配給の量は不足し、質も低下したので、人々は非合法の闇市に頼ったり、農村に買出しに出かけたりしました。

右の写真は、農村へ買出しに行く、たくさんの人々を乗せた列車の様子です。

特に、金属製品は兵器の製造にまわされて不足したため、陶磁器製のやかんやアイロンなどの代用品が用いられました。

しかし、それでも物は十分ではなく、飢えと困難のなかでの生活が続きました。



② 学びの記録 「広島平和記念式典」

8月6日、午前8時から広島記念式典が開かれました。会場である平和記念公園には、約5万人もの人々が集まり、日本だけではなく、世界各地の人々が参列していました。

まずは原爆死没者名簿奉納から始まりました。毎年、原爆により亡くなった方の名前が名簿に書かれ、慰霊碑の中に奉納されます。

奉納の後は、広島市議会議員が式辞を述べました。その後、広島市長、広島市議会議員、遺族代表、子ども代表、被爆者代表、来賓が献花をしました。

そして、8時15分になり、1分間の黙祷をしました。会場は深閑とし、平和の鐘の音、犠牲者への鎮魂の音だけが、鳴り響いていました。68年前のこの時、広島に原爆が投下されたのです。会場の人々は、一瞬にして犠牲になった14万もの命、その後原爆による後遺症で犠牲になった命、たくさんの命に祈りを捧げ、そして今後の平和を願いました。黙祷が終わった後、平和の鐘の音の残響が響く会場で、私は現在の平和を改めて噛み締めました。

黙祷の後、広島市長が平和宣言をしました。市長は、被爆者の差別問題、核兵器廃絶、世界平和について述べられました。



その後、放鳩が行われました。平和の象徴である鳩を広島の空に放ちました。この鳩が、さまざまな場所に平和を運んでくれることでしょう。

放鳩の後は、子ども代表である広島市内の小学生の代表2人が、平和への誓いをしました。新たな世代に、平和のバトンが渡されたのです。混濁の無い、純粋に平和を希求する言葉が心に響きました。

子ども代表の後は、内閣総理大臣、広島県知事、国際連合総会議長、国際連合事務総長が、あいさつをされました。国連の方々には、英語でお話をされたので、翻訳文を見ながら聞きました。言語は違えど、広島への思い、世界平和への思いがひしひしと伝わりました。

そして、「ひろしま平和の歌」の合唱が行われ、式典は終わりました。

私は、式典に参加することが出来て、とても貴重な体験が出来たと思います。この式典で感じた、平和への思いを、今後色々なひとに伝えていきたいです。

③学びの報告

私は今回の広島派遣で、見て、聞いて、感じたことは、今まで文字で学んできたことよりも、ずっとためになったと思います。

教科書や写真で何回も見た原爆ドーム。しかし実際に見てみると、教科書や写真で見ると、何倍もその凄惨さが伝わってきました。焦げて崩れ落ちたレンガ。鉄骨が丸出しになった屋根。どこを見ても、原爆の恐ろしい威力が伝わってきました。

なかでも、私が一番衝撃を受けたのは、原爆の熱線により、飴細工のように捻じ曲がった螺旋階段でした。金属で出来た螺旋階段を、こんなにも容易く捻じ曲げてしまうほどの熱線を、68年前ここにいた人々が浴びた、と考えたら、とても恐ろしくなり、同時に原爆の絶対的恐怖を味わいました。



被爆体験講話では、6歳の時に被爆をした、畠山さんからお話を伺いました。実際に原爆を体験した方のお話は、漫画やドラマで見た被爆体験より、ずっと印象に残りました。原爆が投下される前のささやかな日常、投下された直後の周りの惨状、その後の生活、ひとつひとつ丁寧に話してくださいました。私は、畠山さんの「6歳だった私は、恐怖の記憶を削り取ることで辛うじて生きていくことができた。」という言葉が忘れられません。その言葉から、当時6歳だった畠山さんが負った心の傷が、想像を絶するものだったということが理解できました。その夜、私は一番早く寝たものの、夜中に目が覚めてしまいました。そして畠山さんのお話を思い出し、原爆の恐怖から、しばらく眠ることが出来ませんでした。そして、私はこう思いました。「原爆のことをたくさんの人に伝えるなければいけない。」と。

私は今後、広島で学んだたくさんの方のことを、伝えることに全力を尽くします。同じ日本で起こった原爆の惨状、浴びた人間の未来までも拘束する放射能の恐ろしさ、そして今ある平和の尊さを、1人でも多くの人に伝えていきます。

いつか訪れる世界平和のために…

①事前学習「広島原爆投下の背景」

<マンハッタン計画>

・新型爆弾の開発に着手

ナチスドイツの迫害から逃れる為にアメリカへ亡命した科学者のシラードらは、ドイツが核爆弾を持つことを恐れ、著名な科学者であるアインシュタインの署名を添えてアメリカ大統領ルーズベルト宛に新型爆弾の研究を促す手紙を送りました。ルーズベルトはこれを認め、1939年(昭和14年)10月アメリカは原爆の研究に乗り出しました。

・太平洋戦争の勃発

1941年(昭和16年)12月 日本軍はマレー半島へ上陸すると伴にハワイの真珠湾にあるアメリカ軍基地を奇襲攻撃して太平洋戦争が始まりました。日本はしばらくの間優勢であったが、翌年6月から次第に劣勢になりました。

・マンハッタン計画

1942年(昭和17年)8月「マンハッタン計画」という極秘の原爆製造計画が始まり、軍と科学者と産業界を総動員して進められた巨大軍事開発事業でした。1945年(昭和20年)7月16日、ニューメキシコ州アラモゴードの砂漠で世界最初の原爆実験は成功しました。

<急がれた原爆投下>

・アメリカが原爆投下の対象にしていたのは、ドイツではなく日本でした。

原爆投下を急いだ理由は

- ① 日本を出来るだけ早く降伏させ、米軍の犠牲を少なくしたかった。
- ② ソ連の対日参戦より前に原爆を投下し、大戦後世界でソ連より優位に立ちたかった。
- ③ 新兵器を実戦で使い、膨大な費用を使った原爆開発を国内向けに正当化したかった。

<広島が選ばれた理由>

・1945年(昭和20年)7月25日、投下目標都市は広島、小倉、新潟、長崎のいずれかに決定。8月2日広島を第一標的とする命令が下りました。

その理由として、

- ① 広島は未だ空襲を受けておらず、原爆の威力を確認しやすかった。
- ② 軍隊・軍事施設、軍事工場が集中していた。
- ③ 連合軍の捕虜収容所がないと思っていた。

・8月6日 広島の天気は晴れ。

広島の運命は決まりました。



② 学びの記録 「平和記念資料館」

広島平和記念資料館は、遺品や被爆資料を展示して1945年(昭和20年)8月6日に広島で何が起こったのかと核の時代の現状や平和への取り組みについて紹介する為に1955年(昭和30年)8月に設置された施設です。



1945年(昭和20年)8月6日8時15分、広島に投下された原子爆弾は地上600mの上空で閃光を放って炸裂し、爆心地周辺の地表面の温度は、3,000~4,000度に達しました。これにより当時35万人いた人々の内の14万人の命を奪ったのです。



本館には被爆資料や遺品が数多く展示されており、どれも原子爆弾の恐ろしさと戦争の悲しさ・悲惨さが伝わり、胸が痛くなりました。

その沢山の遺品の中で特に印象に残ったのが右の「弁当箱」です。これは中学校1年生の男子が建物疎開作業現場で被爆した時におなかの下に抱きかかえていたものです。弁当の中身は母親が開墾して初めて収穫した作物で作ったおかずで、喜んで持っていったものでしたが、それを食べることが出来ず無念だったと思います。



右の写真は、3歳の子供が三輪車で遊んでいた時に原子爆弾がその命を奪っていき、庭に残された三輪車と鉄カブトです。楽しかった時間を一瞬にして奪ってしまう原子爆弾の恐ろしさを知りました。



多くの尊い命を奪った原子爆弾は、今後、絶対に使用してはいけなかったと思います。そして、悲しみが繰り返されないような平和な世界になってほしいと強く思いました。

③ 学びの報告

- ・ 今回、広島を訪れて感じたことが沢山ありました。今まで、私は広島に原爆が投下されたことを教科書などある程度は理解していましたが、実際に広島へ行って見て平和記念公園・資料館の見学や被爆者の畠山さんのお話を聞き、原爆の威力や怖さ、戦争の悲惨さ、被爆者の苦しみ・悲しみを感じることができました。
- ・ 被爆者の畠山さんからお聞きした原爆の恐ろしさや沢山の人が苦しんで亡くなっていったことを聞いて、私は体が震え、涙が出そうになりました。そして、戦争は絶対にしてはいけない。核兵器・核爆弾はこの世からなくなり、平和な世界になってほしいと強く思いました。
- ・ 平和な世界の実現の為に私ができることは小さなことかもしれないが、今回学んだこと、感じたことを周りの人に伝えていこうと思いました。



①事前学習「今起こっている戦争」

<戦争とは？>

国家軍力、武力を行使し、作戦・戦闘を遂行すること。

<武力紛争>

武力紛争には3段階あり、

- ① 低強度紛争…テロなど市民がすること
- ② 中強度紛争…地域全体で紛争が起こること
- ③ 高強度紛争…国家総力戦 核戦争

経済における紛争などいくつかの主体が激しく対立している状態。
対立する勢力の武力衝突をさす。

<今起こっている戦争>※

中国とチベット自治政府
台湾と中国
シリアとイスラエル
パレスチナ自治政府とイスラエル
北キプロスと南キプロス
モーリタニアとモロッコ
トルコとクルド人独立勢力
アメリカとキューバ
ロシアとチェンチェン共和国独立
ネパール政府と毛沢東主義派
インドとパキスタン

今起こっている戦争については、国連広報センターや外務省にも問い合わせたところ、明確にすべてを把握している資料はなく、「戦争」についての定義や状況の把握が難しいこと、調べた時期によっても状況が異なるため、実際の状況と異なる点等あるかもしれませんが、インターネットやニュース、資料等を使い、調べた内容ですのでご了承ください。

② 学びの記録 「平和記念公園」

< 韓国人原爆犠牲者慰霊碑 >

韓国から来ていた人の慰霊碑がありました。当時300万人もの人が韓国から来ていました。そのうち5万人が広島にいました。5万人中3万人が被爆し亡くなりました。慰霊碑のところには亀の像があり、その亀は韓国のソウルを向いています。その像の意味は、亀の背中に乗って故郷に帰れるようにとつくられたそうです。

< 平和の時計塔 >

平和の時計塔は、ねじ曲がった形で作られています。

それは、原爆が落とされた8時15分に歴史がねじ曲がったという意味が込められています。毎年、8時15分に鐘が鳴ります。



< 平和の鐘 >

この平和の鐘には、お経・世界地図・鏡が描かれていました。鏡には「自己を知れ」という意味も込められています。

< 被爆したアオギリ >

アオギリは約170本が被爆し、今でも残っているのはここにある木だけです。

この木は被爆樹木とされています。

今は、被爆アオギリ二世として新たな命も大きくなっています。広島市の学校にはアオギリが配られ、植えられているそうです。

※燕市にもアオギリ二世が植樹されています。

< 平和の池 >

この池には、たくさんの綺麗な水がありました。これは「水をくれ」と言って亡くなっていった人たちのために綺麗な水を用意したそうです。

< 平和の灯 >

平和の池の中にあり、火が乗っているところは手の形を表しています。

この火は反核と恒久平和実現まで燃やし続けられるそうです。

③学びの報告

私は、この派遣で学んだことがとてもたくさんありました。
行くまではあまり知識が無く、学校の授業で少し戦争について知っているだけでした。

<千羽鶴奉納>

原爆の子の像に鶴を奉納しました。
そこには、全国から集まった鶴でかけることができないうくらい多くの鶴が奉納されていました。私は、こんなにも多くの人が鶴を奉納していることに驚きました。



<被曝された方の話>

畠山さんのお話は、とても心が痛くなるような話でした。
「当時6歳だった頃の記憶はしっかりとある」と話されていました。それを聞き、忘れたくても忘れられない悲惨なことだったにちがいないと私は思いました。

<平和記念式典>

68年目の8月6日に行われた平和記念式典に参加しました。
平和への誓いの中に

「平和とは、安心して生活できること。
平和とは、一人一人が輝いていること。
平和とは、みんなが幸せを感じること。」

というところがありました。

その言葉は本当にその通りだと思いました。
この平和が永久に続くといいなと改めて感じました。

この体験を通して、平和の尊さを学んできました。
これまで、戦争や核兵器について考えることがあまりありませんでした。
でも、戦争・核兵器の恐ろしさを改めて感じる事ができ、改めて考えさせられる体験でした。
もっとたくさんの人に知ってもらい、考えてほしいと感じました。

世界が平和になることを願って…。

① 事前学習「原子爆弾の被害・惨状」

<1945年8月6日午前8時15分・・・>

この日は、すっきり晴れた非常に暑い真夏の朝でした。
そんな夏の青空にアメリカ軍のエノラ・ゲイが広島の上空に現れ、
8時15分悪魔の兵器原子爆弾が投下されました。

原爆が炸裂した瞬間、都会だった広島が一瞬にして焼け野原と化しました。
当時の広島の人口は、約35万人でした。その内、約14万人が原爆によって
命を落としたと言われています
爆心地から1.2キロメートル圏内は50%が死亡し、爆心地に近い地域は、
80～100%と推定されています。即死をまぬがれた人でも、近距離で被爆
し、傷害の重い人ほど、その後の死亡率が高かったと言われています。
原爆から放出されたものは3つあります。それは、爆風・熱線・放射能です。

<爆風>

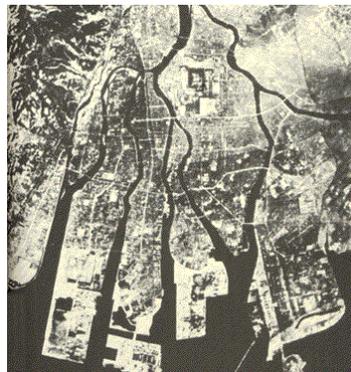
下の写真は爆風によって破壊された鉄筋コンクリートの建物です。
爆風の威力は台風の風速の10倍あり、暴風エネルギーの1,000倍ありました。

<熱線>

熱の温度は、爆心地付近で3,000～6,000℃に達しました。これは太陽の
照射エネルギーの数千倍に相当します。下の図は原爆投下後の広島です。

<放射能>

原爆投下後でも放射能を浴びた人は白血病などに苦しまれ、今でも病気と
闘っている被爆者達があります。



② 学びの記録 「ひろしま子ども平和議会」

<ヒロシマの心を世界に>

8月6日に広島国際会議場で「ひろしま子ども平和議会」を見てきました。広島市内の子どもたちが原爆や平和について自分たちの意見や考えを発表していました。平和を願っている気持ちが子どもたちから伝わりました。



<平和な世界の実現>

海外への留学に行って現地の人たちと交流した中で平和について興味を持つようになったと言っていました。海外と日本は、原爆の悲惨さを通じて手を取り合いながらこの世界を平和にしていこうとしていました。それぞれの国によって平和への考えが違っていたそうです。



<合唱「折り鶴」>

200人あまりの子供たちが平和への思いを歌にして力強く歌っていました。みんながひとつになって歌っていて素晴らしかったです。歌を聴いて自分も平和への思いがさらに強くなりました。

この平和議会は今後の核廃絶にとっても重要なものだと思います。



③ 学びの報告

この3日間僕は、原爆の被害などを知っていく中で忘れかけていた命の大切さを改めて知ることができました。

特に8月6日にあった式典は今でも脳裏に焼き付いています。式辞・あいさつをした代表の人たちみなさんが平和への思いを強く語っていました。そして、8時15分平和の鐘の合図とともに1分間の黙とうをささげました。1分間という短い時間の中で原爆によって亡くなった人達一人一人を思いながら黙とうしていました。そのとき、被爆者たちの姿が目の前に現れたと思いました。



また、平和記念資料館では原爆の破壊力、被害の事をたくさん取り上げていました。被爆した人の写真や実際に被爆した衣服・貴重品など目をそむけてしまいたいようになりました。しかしこれは事実なのでしっかりと目で見てきました。



被爆者（畠山さん）のお話を聞いたときおもわず涙が出そうになりました。聞いているだけで当時の事を体験しているようでした。畠山さんは原爆の事を話している時苦しそうな表情をしていましたが、私たちのために一生懸命に話をしてくれてとても感謝しています。



僕は、広島に行って本当に良かったと思いました。たくさんの人達と触れ合いながら平和について考えました。いつか世界全体に「平和」が訪れるように今、自分ができることを精一杯やりたいとおもいます。みなさんも一緒に平和を・・・。

以上、報告を終わります。

①事前学習 「戦後の復興と平和」

<市民生活と復興>

原子爆弾「リトルボーイ」の威力は旧市内の建物約7万6000戸の90%に半焼・半壊以上の被害をもたらしました。すべてを焼きつくされた廃墟の中からの出発は資材も人手もない中の苦しい始まりでした。

<廃墟の中からの出発>

鉄筋コンクリートの残骸、散乱する死体。見渡す限りの原子砂漠の中、現代より圧倒的に劣る物資、食糧、人員で総力を尽くしました。人類史上最悪の核攻撃からわずか1年半という驚異の早さで広島は蘇っていったのです。



<平和記念都市と復興>

広島平和記念都市建設法により復興だけでなく恒久平和を象徴しようという事をもとに、大きく前進しました。公園、大通り、橋などもできましたが、教育や物が不足し、「原爆孤児」も数多くいました。

「原爆の子供たちに夢を」というスローガンがありました。

<復興を実感できた復興博>

海外からの援助もあり、市民は復興意欲を高めました。昭和33年4月1日から50日間、「広島復興大博覧会」が行われ、大盛況に終わりました。75年間は草木も生えぬと言われた地に、人や街、生活が戻りました。市民の努力と、世界も助けになりました。広く平和を訴えるようになりました。



② 学びの記録 「被爆証言講話」

<講話してくださった方>

広島市在住の島山裕子さん

(写真左から3人目の方)

真剣にお話ししてくださり、時折涙を流していらっしゃいました。笑顔が素敵な方でした。



<原爆投下時の広島>

一瞬の光と大きな音で、広島が火の海になった。血を流しぐるぐる回る人。皮膚が垂れ下がり、泣きわめきもせず、足をひきずり歩く人。井戸に頭をつっこんだまま死に、ハエがたかる死体。やけどした人の骨や肉を食べるうじ虫。背中にガラスが刺さったままの遺族。これ以外にも目を背けたくないような現実があった。地獄のような景色に人々は身も心もボロボロになりながら立ち向かった。全力で生き抜いた。



<伝えたいこと>

死と向かい合うしかない日々、恐怖を削り、かろうじて生きてきた。怖くても本当のことを知ってほしい。どうしたら戦争が、核がなくなるのか。ぶつかりあっても、これ以上文明が発達しなくても良い。平和がおとずれるといふ夢を心から祈ることができる世界を人類が生き延びていくために考えてほしい。核と人類は共存できない。必ず何か訴えていかねばならない。



③学びの報告

「6歳だった私は、恐怖の記憶を削ってかろうじて生きてこられた。」
そうおっしゃったのが、原爆によって被爆された畠山裕子さん。
耳を疑いたくなるようなことばかりでしたが、これが事実なんだと思うと心のやりどころがなくなるようでした。教科書では、絶対にすることのできなかったこと。「今でも当時のことを思い出すのは辛い」と、涙ながらに語ってくださり、あふれんばかりに伝わってくる思いにこちらも胸が熱くなりました。
私たち人間は、これからどう生きていくべきか深く考えさせられました。
また、平和記念公園にいたたくさんの方々の中に海外からも来られた方もたくさんいて、日本の歴史に興味を持ってくれたことに嬉しくなりました。
68年前の8月6日、あの日の今、世界をも動かす悲惨な原爆がここに落ちたのだと思いをはせた式典の黙とう。今でこそ景色は変わったものの消えない、消してはならない現実と心の傷。私たちは必ず伝えていかなければいけません。
今回学べたことを私はひとつひとつ忘れないでしょう。
いつか平和公園の炎が消える日を見届けたいと心から思います。



(引率者) 学校教育課 田邊佳代子

太陽が眩しいヒロシマには、世界中から平和を願う人達が集っていた。穏やかなヒロシマの「今」を訪れ、ヒロシマの「あの日」の爪痕を目の当たりにする。そのヒロシマで、中学生たちが見せる瞳が印象的だった。

原爆ドームを見つめる、まっすぐな瞳
被爆体験者の講話に、潤んだ瞳
ボランティアガイドの説明に聴き入る、真剣な瞳
想いを書いた灯籠を見送る、遠い瞳
ミーティングで仲間と語り合う、思慮深い瞳



燕市を出発した朝の期待できらきらと明るかった瞳は、ヒロシマでどれだけ多くのものを感じたのか。ヒロシマから帰った時の深く輝く瞳は、自分たちの使命を重く受け止めているようだった。

被爆の講話の中で印象に残っている言葉がある。
「ケンカしてもいいと思うんです。」
ただ波風が立たないように仲良くすれば良いというものではない、と。

拳を振り上げて戦うのではなく、意見や思いを聞かせて互いを理解し認め合うことができたなら…。

平和記念式典で英語のスピーチを聴き、式典終了後には外国人観光客と言葉を交わす機会があった。言葉が通じて喜ぶ中学生。「自分のことを分かってほしい」「相手のことを知りたい」…そんな素直な思いでコミュニケーションをとることが、相互理解につながるのではないだろうか。

外国がますます身近になっている今、通訳を介さず世界の人々と直に理解し合うためのツールとして、特にこれからの世代には外国語が必要だと感じた。

過去を学び、平和な未来のために行動すること。

「あの日」は変えられないけれど、過去への想いを作り、「今」できることをすることで「これから」を変えていけると思う。

中学生たちの目を通して、平和に対する純粋な想いを感じることができた。

彼らが輝く瞳で見つける世界平和への可能性のために、私ができることは何だろう。たとえ小さなことでも、若い世代と想いを共有し、彼らを見守りながら、「これから」を歩んでいきたい。

(引率者) 学校教育課 小林 靖直

「あの日」から68年目の朝が巡ってきた。その朝、世界中から集まった平和を願う何万という人々の中、私は燕市を代表する5名の中学生とともに黙とうをささげていた。



頭を垂れ、目を閉じ祈りながら、前日の被爆体験者の話を思い起こしていた。

「6歳だった私は、恐怖の記憶を削り取ることで、かろうじて生きてこられたのです。」と畠山さんは、目に涙を浮かべ静かに語った。辛く厳しい境遇の中、怒りや憎しみ、そして悲しみ・・・、様々な感情と葛藤し続けながら懸命に生きてられるその姿に震えが止まらなかった。



自らが悲惨な体験をしたからこそ、「ほかの誰も同じような残酷な目にあわせてはならない」との願いが心に痛い。そして畠山さんは続けた。「地球を愛し、人を愛する気持ちを世界の人々が共有するならば、戦争をなくすことはできるかもしれない。世界に平和が訪れるのは夢ではない。」

・・・1分間の黙とうのあと、広島のごども代表が呼び掛ける。

平和とは、安心して生活できること。

平和とは、一人一人が輝いていること。

平和とは、みんなが幸せを感じること。

平和の実現は、だれかに訴えてできるものではない。わたしたち自らが作り出していくものである。平和な未来を築いていくのは、わたしたち一人一人である。

その未来に大きな希望を抱かせてくれるのが、代表の中学生たちであった。広島での貴重な体験を、さらに価値あるものと深化させていってほしいと期待している。

平和のメッセンジャーとして。

そして、未来を築くリーダーとして。



6日(火) ②子ども平和の集い

未来を担うのは、私たちです。

6日(火) ③平和記念公園での調査・聞き取り

多くの犠牲の上に、今の平和と繁栄があることを改めて思い知らされます。

6日(火) ④灯籠流し

想いをメッセージに込めて祈り、そして流します。

6日(火) ⑤ピースナイター

特別な日。特別なナイター。それは「ピースナイター」！サイコーの結末に、みんなで大歓声をあげました。

6日(火) ⑥ミーティング

どんなに遅くなくても、どんなに疲れていても学びの振り返りは怠りません。

一人ずつ、それぞれの思いを話します。

広島平和記念式典派遣事業の様子



出発式の様子



広島電鉄の広島駅



原爆ドーム前



原爆の子の像前



広島平和記念公園前



ひろしま子ども平和議会



平和へのメッセージ



広島市内で国際交流？



ピースナイター観戦



宮 島



報告会の様子

1. 派遣事業の概要

派遣事業の概要は次のとおり。目的を理解し、有意義な学習活動となるよう留意する。

(1) 目的

非核平和宣言都市推進事業及び平和学習活動実施の一環として、広島平和記念式典をはじめとするさまざまな催しに次代を担う中学生を派遣することにより、国際的な視点をもって命の尊厳や平和の尊さについて理解できる生徒を育成することを目的とする。

(2) 日程

平成25年8月5日（月）から平成25年8月7日（水）まで

(3) 主な活動内容

- 広島
- ①広島市原爆死没者慰霊式並びに平和祈念式への参列
 - ②広島平和記念資料館、原爆ドーム、原爆死没者慰霊碑等の見学
 - ③原爆の子の像に各校で作成した千羽鶴を納める
 - ④被爆証言講話の受講
 - ⑤灯籠流しへの参加
 - ⑥全校生徒への報告（←事後）
- （2学期はじめ、各学校で報告会などを実施する。→報告書の提出）

(4) 行程

P. 2の「広島平和記念式典」派遣事業日程 をご覧ください

(5) 参加者名簿

氏名	よみ	性別	学校名	学年	備考
金子 美希	かねこ みき	女	燕中学校	3	
宗村 晃佑	むねむら こうすけ	男	小池中学校	3	
中条 莉奈	なかじょう りな	女	燕北中学校	3	
日下部 悟司	くさかべ さとし	男	吉田中学校	3	
石口 唯	いしぐち ゆい	女	分水中学校	3	

(6) 引率者

燕市教育委員会 学校教育課 統括指導主事 小林 靖直
学校教育課 指導係主査 田邊 佳代子

2. 派遣事業参加中の役割分担

自主的な学習活動を進めるため、役割分担をする。

役割分担の内容		人数	氏名 (中学)
(1)	ミーティング司会	1名	日下部 悟司 (吉田中)
(2)	記録 (見学・訪問先等)	2名	宗村 晃佑 (小池中)
			中条 莉奈 (燕北中)
(3)	被爆証言講話講師へのお礼のことば	1名	石口 唯 (分水中)
(4)	引率者との連絡調整	1名	金子 美希 (燕 中)

3. 話し合いによる、事業の目的に沿った学習活動の展開

より有意義な体験にし、各学校の全校生徒へより効果的に伝えるため、「事前の学習」、「学びの記録」、「学びの報告」という3ステップで学習活動を進める。

(1) 事前の学習 (当日までに、各自が調べておく。)

事前に以下のことについて学習し、より充実した体験とする。

- ① 日程及び資料の確認 (担当: 全員)
- ② 被爆体験者への質問 (担当: 全員)
- ③ 太平洋戦争戦時下の生活 (担当: 金子 美希 (燕 中))
- ④ 広島原爆投下の背景 (担当: 宗村 晃佑 (小池中))
- ⑤ 原爆の被害・惨状 (担当: 日下部 悟司 (吉田中))
- ⑥ 戦後の復興と平和 (担当: 石口 唯 (分水中))
- ⑦ いま世界で起きている紛争や戦争 (担当: 中条 莉奈 (燕北中))

(2) 学びの記録 (参加中の体験、学習)

以下の項目について担当がそれぞれレポートとしてまとめる。

- | | | |
|--------|----------------|--------------------|
| 広島での学び | ① 平和記念公園 | (担当: 中条 莉奈 (燕北中)) |
| | ② 平和記念資料館 | (担当: 宗村 晃佑 (小池中)) |
| | ③ ひろしま子ども平和会議等 | (担当: 日下部 悟司 (吉田中)) |
| | ④ 被爆証言講話 | (担当: 石口 唯 (分水中)) |
| | ⑤ 広島平和記念式典 | (担当: 金子 美希 (燕 中)) |

(広島市原爆死没者慰霊式並びに平和祈念式)

(3) 学びの報告 (まとめ)

参加前の学習や実際に3日間の研修に参加して得たものや感じたこと、またこれらの経験を受けて、全校生徒や周りの人に伝えたいことをまとめる。

さらに、それらの内容をもとに各学校で報告会などを実施する。

☆提出について

以上の内容について、まとめたものを8月23日（金）までに各学校へ提出する。

- ①事前の学習・・・担当箇所をA4に1枚でまとめる（写真、資料挿入可）
- ②学びの記録・・・担当箇所をA4に1枚でまとめる（写真数枚）
- ③学びの報告・・・参加者全員がA4に1枚でまとめる（写真1枚）

[ワープロソフトを使う場合、次の書式を標準とする。]

- ・A4 たて
- ・明朝体 12ポイント
- ・余白（上：35mm、下：35mm、左：30mm、右：30mm）

④参考HP例

広島平和記念資料館 web site

<http://www.pcf.city.hiroshima.jp/index2.html>

キッズ平和ステーションヒロシマ

<http://www.pcf.city.hiroshima.jp/kids/index.html>

広島平和記念資料館「平和データベース」

<http://www.pcf.city.hiroshima.jp/database/>

4. その他

宿泊先 アーバイン広島エグゼクティブ

住 所： 〒732-0053 広島県広島市東区若草町 16-13

TEL： 082-567-6600

資料 「非核平和都市宣言」 (平成18年12月25日)

美しい自然を愛し平和を願う心は人類共通のものです。

これを根底から揺るがし、地球環境と人類の平和を脅かす核兵器は絶対に容認できません。

世界でただ一つ悲惨な体験をした被爆国の国民として、核兵器の廃絶と非核三原則をいま一度世界に向け強く訴えていかなければなりません。

人と自然と産業が調和しながら進化するまちづくりをめざしている燕市は、新市誕生を機として、決意を新たに世界の恒久平和を願い、ここに「非核平和都市」を宣言します。

燕 市

被爆アオギリ二世

被爆アオギリ二世の親木のアオギリは、爆心地から北東1.3 kmにある中国郵政局の中庭で被爆しました。爆心地側の幹半分が熱線と爆風により焼けてえぐられましたが、焦土の中で青々と芽を吹き返し、被爆者に生きる希望を与えました。その後、このアオギリは昭和48年(1973年)に平和記念公園内に移植され、今でも樹皮が傷跡を包むようにして成長を続けています。被爆アオギリ二世は、このアオギリの種から育てられたもので、「平和を愛する心」、「命あるものを大切に作る心」を育み、平和の尊さを伝えるとともに、過ちを再び繰り返さないよう、被爆の実相を後世に伝えます。

燕市 平成19年4月 植樹



燕市役所正面出入口前 (2013.8.22 撮影)



広島平和記念式典派遣事業

実施報告書 2013年8月5日(月)～7日(水)

燕市：●総務部総務課 ●教育委員会学校教育課